

【 基礎分野 】 14単位 300時間

I. 科目構築の考え方

基礎分野は、看護の役割や機能が拡大する現在において、看護の対象である人間の理解や健康、環境の概念を深く理解し、多様な場のあらゆる健康レベルに対応する看護を実践するうえで必要な学際的な知識や考え方、そして人間理解につながる分野である。科学的思考力および感性を磨き、クリエイティブで主体的な判断と行動の基礎となる科目として人間工学、論理学を設定する。看護の対象の多様な価値観や人権擁護の重要性と看護の対象をとりまく環境である社会の仕組みを幅広く理解する科目としては、心理学、人間関係論、人間と社会、教育と学習、生活環境学、家族関係論を設定する。また看護の対象である人間は環境と相互に影響しあいながら自ら健康な状態に向かうよう行動する存在であり、健康で豊かな生活を営む上で必要な知識と技術を身につける科目として、保健体育、健康と運動を設定する。現代の社会的背景において、看護の場の拡大や看護の機能拡大のなかで注目されている ICT（情報通信システム）を活用できる基礎的能力を養うために、情報リテラシーに関する基礎的な知識や倫理、データ分析に必要な統計学までを幅広く学修する科目として情報科学・演習を設定する。また情報リテラシーの考え方を基礎とし、医療情報全般の特徴、看護と情報の関連、医療現場における実践的な取り組み等について理解を深め、身近な電子機器を用いた ICT の活用を工夫する科目として、医療情報と看護を設定する。また、国際化へ対応できる能力を異文化の視点から理解する内容として英語講読、英会話を設定する。

II. 授業の概要 (シラバス)

分野	基礎分野	科目名 単位 (時間)	情報科学・演習 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	高野 香子 医療法人高野胃腸科 理事 総務統括部長 元九州大学院特任助教						
授業概要	<p>ICT の普及によって、コンピューターをインターネットに接続している場合だけに留まらず、日常的にオンラインシステムを利用しているサイバー空間が広がっている。このような状況で、我が国では法の整備が広がり、個人としてセキュリティへの対応能力の向上が求められている。本講義では、今後の ICT 国際社会で生き抜くための基礎的知識の修得と判断能力の向上を目的として、情報リテラシーに関する基礎的な知識、技術、法律、倫理までを幅広く学修する。</p> <p>コンピューターによる情報収集、情報処理方法を学び、データを整理・分析するための統計の基礎的知識を学修する。</p>						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会における情報の役割と意義、問題意識を養うための基礎的な知識を養う 2. 情報を活用する上での適切な判断力と態度を養う 3. 情報とデータの整理、統計の基礎的知識について学び科学的な思考ができる能力を養う 4. コンピューターによる情報収集、情報処理方法について学び、看護の実践へ活用できる能力を養う 						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 2. 系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院 						
参考文献							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート	○	口頭試問	授業態度	出席状況
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の定義と特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報とは 2) 情報の特性 3) 情報の認知と意思決定 2. 社会と情報 <ol style="list-style-type: none"> 1) インターネットのしくみとネットワーク 2) ICT (情報通信技術) とその活用 3) 情報化による社会の変化 4) 情報社会で求められること 				講義	高野 香子	
2	<ol style="list-style-type: none"> 3. 情報へのアクセスとリスク <ol style="list-style-type: none"> 1) 電子情報のリスクとセキュリティ 2) インターネット上で役立つ情報へのアクセス 3) インターネットに関する基礎知識と注意点 				講義	高野 香子	

	4. ICT の活用 1) 技術革新と医療 (AI、IoT、遠隔診療等)		
3	5. 情報に関する法律 1) 不正アクセス行為の禁止等に関する法律 2) 著作権法 3) 電子署名及び認証業務に関する法律 4) 特定電子メールの送信の適正化等に関する法律 5) サイバーセキュリティ基本法 6) 個人情報保護法 6. 情報リテラシー 1) 情報リテラシーとは 2) 情報倫理	講義	高野 香子
4	7. 統計学・医療統計学とは	講義・演習	高野 香子
5	8. 情報とデータのまとめ方・図示法	講義・演習	高野 香子
6	9. 平均・中央値・分散・標準偏差	講義・演習	高野 香子
7	10. 相関分析	講義・演習	高野 香子
8	11. 回帰直線	講義・演習	高野 香子
9	12. クロス集計	講義・演習	高野 香子
10	13. 検定とは	講義・演習	高野 香子
11	14. χ^2 二乗検定	講義・演習	高野 香子
12	15. 中心極限定理	講義・演習	高野 香子
13	16. 正規分布	講義・演習	高野 香子
14	17. t 検定	講義・演習	高野 香子
15			
	終講試験、課題評価	試験(評価)	単位認定者 高野 香子

分野	基礎分野	科目名 単位（時間）	医療情報と看護 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 後期			
講師名 所属	高野 香子 院内講師 岩谷 望美	医療法人高野胃腸科 嬉野医療センター 嬉野医療センター附属看護学校	理事 診療情報管理士 教員	総務統括部長	元九州大学院特任助教					
授業概要	<p>多様な場のあらゆる健康レベルの対象に向けた支援を行うためには、他職種・多職種での連携・協働が必要不可欠であり、それを可能にする ICT を活用できる基礎的能力を学修する必要がある。そのため、医療情報全般の特徴、看護と情報の関連、医療現場における実践的な取り組み等について理解を深めることを目的とする。</p> <p>本科目では、1 年次の情報科学・演習で学修した情報の概念や情報社会の背景、情報リテラシーといった情報に関する基礎的知識から、医療情報を医療の現場で有効に扱うリテラシーについて考察する。また医療における情報システムについて、地域や医療施設での連携・協働の視点から学ぶ内容になっている。この知識を基に 3 年次の看護管理では、情報マネジメントの視点からみた医療情報システムとして、電子カルテの運用等のマネジメントの実際を学ぶ。</p>									
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における情報システムが理解できる 2. 情報社会での看護師の役割が理解できる 3. 身近な電子機器による ICT 活用を考えることができる 									
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院									
参考文献										
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における情報 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療情報の種類 2) 医療情報の標準化と電子化 3) 医療情報の利用と倫理 				講義		院内講師			
2	<ol style="list-style-type: none"> 2. 医療情報システム <ol style="list-style-type: none"> 1) 医事会計システム 2) オーダーエントリーシステム 3) 電子カルテシステム 4) 部門システム 				講義		院内講師			
3	<ol style="list-style-type: none"> 3. 診療情報と運用システム <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療情報の管理 2) 入院患者についての疾病統計 3) 診療録管理体制加算とは 4) 診療録管理体制加算に伴う各部署の役割 				講義		院内講師			

4	<p>4. 看護と情報</p> <p>1) 看護における情報</p> <p>2) 情報社会と看護</p> <p>3) 看護と情報に関する倫理</p>	講義	<p>教員</p> <p>岩谷 望美</p>
5	<p>5. 医療における情報システム</p> <p>1) 地域医療福祉のネットワークと情報システム</p> <p>(1) 医療・介護・健康分野のネットワーク化の推進</p> <p>(2) 地域における ICT 化の活用</p> <p>(3) 地域医療情報連携ネットワークの実際</p>	講義・演習	高野 香子
6	<p>6. 看護支援システム</p> <p>1) 看護用語の標準化</p>	講義・演習	高野 香子
7	<p>2) 看護ケアの効率化・経済性の向上</p> <p>3) 患者情報の保護と活用の両立</p>		
8	終講試験	試験(評価)	<p>単位認定者</p> <p>岩谷 望美</p>

分野	基礎分野	科目名 単位（時間）	人間工学 1単位（15時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1年前 期			
講師名 所属	松尾 重明 久留米工業大学工学部 教授									
授業概要	ヒトが行動する際には、機械が動くことと同じく重力やモーメントなど力学的要素が働いている。看護動作においてもこれを無視することはできない。力学的な考察をすることにより、看護作業の効率化および負荷低減の技術を身につけることが可能となる。当科目では、工学的視点からヒトの基本動作や看護援助動作を解析および考察を行い、看護作業の効率化および負荷低減の知識を身につけることを目標とする。									
科目目標	1. ヒトの動作を人間工学の視点から理解し、看護にいかすことができる 2. 医療機器の安全使用に必要な物理学的知識を理解できる									
テキスト	適宜プリント配付									
参考文献	小川鑛一，東京電気大学出版局，基礎人間工学									
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 人間工学とは				講義		松尾 重明			
2	2. 人の基本動作				講義		松尾 重明			
3	3. ボディメカニクスを理解するための力学				講義		松尾 重明			
4	4. 看護業務と生体への負荷				講義		松尾 重明			
5	5. 看護の安全と人間工学				講義		松尾 重明			
6	6. 治療・検査・処置に関する物理				講義		松尾 重明			
7										
8	終講試験				試験(評価)		単位認定者 松尾 重明			

分野	基礎分野	科目名 単位（時間）	論理学 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期			
講師名 所属	達富 洋二 佐賀大学教育学部 教授									
授業概要	論理的に考え、考えたことを分かりやすい文章で書く技能を習得する。 「書き換える」「要約する」「段落に分けて書く」「意見文を書く」の演習を通して、自分の考えが伝わるように書く技能を習得する。									
科目目標	人間関係をひらくコミュニケーション能力をもつ看護師を目指し、論理的に考えることについて理解するとともに、考えたことを分かりやすい文章で書く技能を習得する									
テキスト	毎回の教材は、担当者が用意する。									
参考文献	毎回の授業の中で、話題と関係する内容のものを、現物とともに紹介する。									
評価方法	第1回から第6回までに小課題を課します。第8回に、本科目の学習内容の習得状況を問う試験を行います。これらを総合して評価します。 なお、小課題はメールによる提出を求める場合があります。									
	筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 論理的に考えるということについて文章例を精読することで理解する。				講義		達富 洋二			
2	2. 「伝わるように分かりやすく書く」の演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
3	3. 「誰にでもできる要約」の演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
4	4. 「質の高い要約」の演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
5	5. 「段落を意識して書く」の演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
6	6. 「自分の考えを書く」演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
7	7. 「自分の考えが伝わるように書く」演習を通して分かりやすい文章を書く技能を習得する。				講義・演習		達富 洋二			
8	8. 「自分の考えが伝わるように書く」ことについて課題に取り組む。 終講試験				講義・演習 試験(評価)		単位認定者 達富 洋二			

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	心理学 1単位(30時間)	授業形態	講義	開講 時期	1年 前期			
講師名 所属	東 巧									
授業概要	心理学は自己理解、他者理解、人間関係形成のための基礎知識を学ぶ									
科目目標	人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、人間関係形成へと発展するための基礎的知識を養う									
テキスト	1. 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院									
参考文献	講義時に紹介する。									
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記		レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法			担当講師		
1	1. 心理学の歴史と方法				講義			佐藤 基治		
2	2. 感覚				講義			佐藤 基治		
3	3. 知覚				講義			佐藤 基治		
4	4. 学習				講義			佐藤 基治		
5	5. 記憶				講義			佐藤 基治		
6	6. 思考				講義			佐藤 基治		
7	7. 言語				講義			佐藤 基治		
8	8. 動機づけ				講義			佐藤 基治		
9	9. 情動				講義			佐藤 基治		
10	10. 発達				講義			佐藤 基治		
11	11. 性格				講義			佐藤 基治		
12										
13	12. 対人関係				講義			佐藤 基治		
14										
15	終講試験				試験(評価)			単位認定者 佐藤 基治		

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	人間関係論 1 単位(30 時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期			
講師名 所属	上瀧 純一 古賀 義	NPO法人ここねっと・くるめ代表 臨床心理士 公認心理師 道ノ尾病院 臨床心理士 元大学教授								
授業概要	人間関係の基礎となる発達理論を基礎に自他の心理状態への理解を深める。また患者理解、患者とのかかわり方の基礎となるカウンセリング理論について学ぶ。さらに、具体的なコミュニケーションの取り方や臨床現場における自己理解・他者理解の方法と信頼関係を成立させる方法について演習を通して学習する。									
科目目標	1. 人間関係およびカウンセリングの基礎的理論を学び、対人関係の具体的方法として、接近の仕方、人との話し方、話の聴き方、カウンセリングの基礎的理論とその技法を身につける 2. 集団における人間関係のあり方や自己表現の方法を学び、自己理解と他者理解を深める 3. 生活場面における人間関係において、よりよい関係を築くためのスキルを養う									
テキスト	生活にいかす心理学[Ver. 2] 古城和子（編著） ナカニシヤ出版 プリント配布									
参考文献	講義時に紹介する									
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容					教授・学習方法	担当講師			
1	1. ガイダンス：人間関係論とは何かを学び、看護における人間関係について知る。					講義・演習	臨床心理士 上瀧 純一			
2	2. 自己理解と他者理解：人間関係における自己を知り、他者を理解することの必要性について学ぶ。					講義・演習	臨床心理士 上瀧 純一			
3	3. 自己開示：人間関係における、自分のことを他者に伝えることの重要性について学ぶ。					講義・演習	臨床心理士 上瀧 純一			
4	4. 集団の中の個人：個人を取り巻く集団の影響について学ぶ。					講義・演習	臨床心理士 上瀧 純一			
5	5. チームにおける人間関係：チームにおけるコミュニケーションとリーダーシップについて学ぶ。					講義・演習	臨床心理士 上瀧 純一			
6	6. 患者理解の基礎となる精神分析的・発達の考え方について学ぶ。エリクソンのライフサイクルを軸に自分の発達段階を振り返る。					講義・演習	臨床心理士 古賀 義			
7	7. 親子関係で形成される家族内人間関係が、学校や職場での人間関係に及ぼす影響を知る。 医療現場でのカウンセリングの事例を示して、人間関係が心身全体にどのような影響を及ぼすかについて知る。					講義・演習	臨床心理士 古賀 義			

8	8. 人間関係の基礎としてのコミュニケーションについて学ぶ。傾聴と受容のロールプレイ。聴く体験、聴かれる体験、聴かない体験、聴かれない体験。コミュニケーションスキルについて体験する。	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
9	9. 非言語的コミュニケーション。伝言ゲーム等を通して人間を理解する方法を学ぶ。交流分析とエゴグラムについて講義する。実際にエゴグラムを実施して自己理解を深める。ナースとしての理想像と現実の自分とを比較して自分を見つめる。	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
10	10. 人間関係の問題解決に向けて、今の自分の問題点と必要なことについて考える。 カウンセリングの意義と技法について講義する。傾聴、受容、事柄と意味への応答、感情への応答について事例を交えて講義する。	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
11	11. 受容的・精神分析的カウンセリングについて講義する。集団へのかかわりのメリットについて触れる。	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
12	12. 患者理解の方法を知る。	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
13	13. ストレスマネジメントを通しての自己理解と他者理解	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
14	14. 信頼関係をすすめるための演習 (ブラインドウォークを通して)	講義・演習	臨床心理士 古賀 義
15	15. 信頼関係をすすめるための演習 ロールプレイングとアサーション・トレーニング 終講試験	講義・演習 試験(評価)	臨床心理士 古賀 義

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	人間と社会 1 単位(15 時間)	授業形態	講義	開講 時期	1 年 前期			
講師名 所属	高寄 浩平 九州大学大学院 専門社会調査士									
授業概要	本講義の目的は、社会的存在として人間を理解する視点を身につけることである。人間をその置かれた社会的な環境から捉える視点を獲得するために、本講義では具体的なテーマ(家族・ジェンダー・地域・労働・教育・福祉など)に基づいて人間と社会の関係性やその相互作用について学び、人間と社会の基礎的な理解や、現代社会の諸特徴の理解を目指す。看護現場で出会う人びとは、生物学的な存在(ヒト)であると同時に、社会的な存在でもある。本講義を通して人間と社会についての理解を深め、看護の対象者を生活者としてとらえる視点を獲得することにより、豊かな看護実践の一助となれば幸いである。									
科目目標	1. 人間にとっての社会とは何かを理解できる 2. 現代社会で生活する人間と社会との関係を考えることができる 3. 現代社会の特徴と社会の変化を理解できる									
テキスト	指定はしない。 講義冒頭で講義冊子を配布するので、毎回の講義には当該冊子を必ず持参すること。									
参考図書	社会学 A. ギデンズ 松尾精文ほか訳 而立書房 ※講義で扱ったテーマをより深く知りたい場合は、参考書の該当箇所を参照すること。									
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 社会(科)学の基礎的思考法 因果関係・相関関係・疑似相関など、科学的思考法を学び、社会の諸事象を因果で結ぶトレーニングをする。				講義		高寄 浩平			
2	2. 家族、ジェンダー 家族の定義・類型・機能を踏まえ、ジェンダー、性別役割分業、近代家族について学んだ上で、近代化・産業化が家族のあり方(およびその前提であり結果であるジェンダー観)をどのように変容させたのかについて理解する。				講義		高寄 浩平			
3	3. 労働・教育 近年の日本社会における働き方の変化について、教育や格差の問題と関連させながら考える。				講義		高寄 浩平			

4	4. 都市化と地域 コミュニティや都市化の概念について理解した上で、近年の日本社会を「地域社会」の観点から検討する。	講義	高寄 浩平
5	5. 福祉社会学 近年の日本社会の人口構造や社会の変化を踏まえ、子育て支援・介護・障害者福祉・貧困対策といった社会福祉への社会学的な捉え方を理解する。	講義	高寄 浩平
6	6. 社会的逸脱 アノミー論やラベリング理論といった、社会的な規範から逸脱する行為に対する社会学的な考え方を学ぶ。	講義	高寄 浩平
7	7. まとめ 講義の全体を振り返り、まとめを行う。	講義	高寄 浩平
8	終講試験	試験(評価)	単位認定者 高寄 浩平

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	教育と学習 1単位(15時間)	授業形態	講義	開講 時期	1年 前期			
講師名 所属	植田 啓嗣 国立大学法人 福島大学 人間発達文化学類 准教授									
授業概要	本講義は、履修者が保健医療福祉領域における患者・サービス利用者の複雑・多様化するニーズに応えうる実践者として求められる教育・学習理論を学び、それらの知識に基づきながら自律的かつ主体的に学習する必要性を理解できることを目標とする。前半は、教育の目的と人間の発達を理解した上で、どのような教育方法が望ましいのかについて考える。後半は、成人教育や自己教育について学んだ上で、どのように医療・看護分野に応用するかについて考える。									
科目目標	1. 教育の意義と目的を理解し、教育方法および評価方法を理解できる 2. 学習の目的をふまえ主体的に学習する必要性が理解できる									
テキスト	使用しない。									
参考文献	1. 看護のための教育学 中井俊樹・小林忠資編著 医学書院 2. やさしい教育心理学 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 有斐閣アルマ その他、授業中に適宜提示する。									
評価方法	試験の結果(80%)、授業内の小レポート(20%)を総合して評価する。 詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 教育の意義と目的				講義		植田 啓嗣			
2	2. 人間の発達理論				講義		植田 啓嗣			
3	3. 学習理論				講義		植田 啓嗣			
4	4. 動機づけ				講義		植田 啓嗣			
5	5. 教育評価				講義		植田 啓嗣			
6	6. 成人教育理論(アンドラゴジー)と生涯学習				講義		植田 啓嗣			
7	7. 看護師のキャリア開発と自己教育				講義		植田 啓嗣			
8	終講試験				試験(評価)		単位認定者 植田 啓嗣			

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	英語講読 1単位(30時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	1年 前期			
講師名 所属	井上 洋 元 佐賀県立高校 元 校長									
授業概要	医療に関する専門用語、語法などを学び、処方箋や薬品の説明なども取り入れた、英文(医学英語)を理解できるようにする。									
科目目標	1. 看護場面での英語を理解するための基礎英語力を身につける 2. 看護に関する英語の文献を読解する力を高める									
テキスト	English for Medicine 医療・看護のためのやさしい総合英語 金星堂									
参考文献										
評価方法	プレゼンテーション詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容	教授・学習方法				担当講師				
1	医学英語：ポリオとワクチン接種	講義・演習				井上 洋				
2	医学英語：医師の処方箋									
3	医学英語：気圧と片頭痛									
4	医学英語：内科健診									
5	医学英語：結腸ポリープ									
6	医学英語：呼吸器症状									
7	医学英語：中間まとめ(復習)									
8	医学英語：糖尿病									
9	医学英語：動脈疾患									
10	医学英語：診察と健康保険									
11	医学英語：アレルギー反応									
12	医学英語：新型コロナウイルス感染症									
13	医学英語：胸やけと内視鏡検査									
14	医学英語：更年期									
15	医学英語：最終まとめ(復習)									
	終講試験	試験(評価)				単位認定者 井上 洋				

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	英会話 1単位(30時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	2年 前期			
講師名 所属	Arbo Mark Harold 元 佐賀県 ALT									
授業概要	医療系英語の基本的なコミュニケーション能力を身につけ、医療現場での場面の英会話を楽しく学ぶ。									
科目目標	1. 英語力を応用し、基礎的な英会話及び看護場面における英会話能力を身につける 2. 国際社会に対応する日常生活英会話を身につける									
テキスト	知念クリスティーン、上瀧真紀恵 クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院									
参考文献										
評価方法	課題評価詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問	○	授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 日常の挨拶				講義・演習		Arbo Mark Harold			
2	2. 自己紹介									
3	3. 情報収集									
4	4. 受信時の対応									
5	5. 診療科の案内									
6	6. 症状アセスメント									
7	7. 問診									
8	8. 中間試験									
9	9. 病歴聴取									
10	10. 服薬指導									
11	11. 検査予約									
12										
13	12. 術前の処置									
14	13. 体調確認									
15	終講試験				試験(評価)		単位認定者 Arbo Mark Harold			

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	保健体育 1 単位 (30 時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期			
講師名	院外講師									
所 属	院外講師									
授業概要	<p>本科目の目標は、健康で豊かな生活を営む上で、体育の実技を学び、精神的・体力的資質の向上を図るとともに協調性を身につけることである。日本人の平均寿命は世界最高水準となったが、健康寿命との差が課題となっている。特に更年期以降の骨盤底筋や体力・筋力の問題はその後の生活の質を左右する。長い人生を生き生きと自律して生きることは私たちの願いであり、病気や障害の有無にかかわらずその人の主体的健康観が重要である。日頃から、その人らしく「食べる」「休む」「動く」「社会とかわる」ことが重要であることは看護学を学ぶ者にとって興味関心が高い。また、学生自身がこれからの人生を豊かに過ごすためには、自分にフィットする（楽しんでリフレッシュできるような）スポーツに出会ってほしい。ヨガやストレッチ、ピラティス、家の中でも外でも、広い場所でも狭い室内でも、だれかと一緒に、また一人の時間でもでき、だれかに強制されることなく、自主的に体を動かしたくなるスポーツがよい。本科目では生涯スポーツ論としての理論と実技を学ぶ。また、1年生後期に開講する「健康と運動」とともに関連して学ぶ。</p>									
科目目標	体育の実技を学び、精神的・体力的資質の向上を図るとともに強調性を身につける									
テキスト	適宜資料を配布									
参考文献										
評価方法	演習への参加、意欲・態度や基礎技能を総合的に評価、レポート評価 詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記		レポート	○	口頭試問		授業態度	○	出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法			担当講師		
1	1. 運動とスポーツの違い 2. 呼吸と運動パフォーマンスへの影響				講義・演習			院外講師		
2	3. ストレッチの基礎 1) ストレッチの効果									
3	4. ウォーキングの基礎 1) ウォーキングの効果 2) ウォーキングのフォーム									
4	5. 体育実技 ウォーキング									
5										
6	6. 有酸素運動が身体に与える効果 スロージョギング									
7										
8										
9										
10	7. 加齢に伴う身体的変化と効果的な運動									

11	骨盤底筋エクササイズ		
12	8. 加齢に伴う身体的変化と効果的な運動 ピラティス	講義・演習	単位認定者 院外講師
13			
14			
15			

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	健康と運動 1単位(15時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	1年 後期			
講師名 所属	矢次 春風 九州大学大学院 基幹教育院 リサーチアシスタント									
授業概要	<p>本科目は講義と演習を予定している。講義では、健康と運動との深い関わりを学ぶことにより看護の対象である有患者における健康の保持・増進、疾病の予防のための運動療法の知識を得る。演習では、運動（身体を動かすこと）の効果や楽しさを体験できる授業を展開する。また家庭、通学・通勤途中、スポーツなどの様々な場面で簡単に取り入れられる運動の種類、方法、さらにはその効果を学ぶことによって、看護に携わる看護師自身の健康づくりの方法を習得する。</p>									
科目目標	<p>1.健康と運動との関係を理解し、運動のメリット・デメリットを理解できる 2.健康の維持・増進のための運動の意義、目的、および手法を理解できる 3.運動による健康への影響と効果を理解できる</p>									
テキスト	配布資料をもとに授業を展開する。									
参考文献	配布資料をもとに授業を展開する。									
評価方法	出席状況、授業態度、および試験成績から総合的に評価する。 詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度	○	出席状況	○
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法			担当講師		
1	1.運動の身体への影響と効果				講義			矢次 春風		
2	2.運動による疾病の予防と改善									
3	3.日常生活における運動のあり方									
4	4.各種運動と体力づくりの方法				講義・演習			矢次 春風		
5										
6										
7	5.まとめ				講義			矢次 春風		
8	終講試験				試験(評価)			単位認定者 矢次 春風		

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	生活環境学 1 単位 (15 時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期			
講師名 所 属	佐藤 豊 一級建築士 (元 大学教授) 飛奈 卓郎 長崎県立大学看護栄養学部 准教授									
授業概要	現在は超高齢社会である。在宅ケアのあり方が今後ますます重要な課題になると思われる。在宅ケアのためには、住宅のなかにケアを可能とする空間が必要となる。その空間を実現するためのキーワードのひとつがバリアフリーである。したがって、その内容を具体的に理解することが適切なケアを提供するものの基礎知識として要求される。健康と食生活の関わりについて基礎的な理解を深めることに視点をおいて講義する。また、最新の情報を取り入れながらライフステージ別の食の課題について学ぶ。本講義は、栄養学の基礎知識となる講義として一部位置付けている。									
科目目標	1. 安全で快適な生活を送るために必要な住生活環境に関する生活行動や生活環境について、科学的に理解できる 2. 人の健康に大きく関与する食生活について学び、ライフサイクルの各段階における食の課題について理解できる									
テキスト	講義資料はその都度配布する。									
参考文献	外山義著 「自宅でない在宅－高齢者の生活空間論」 医学書院 講義内容に応じてその都度紹介する。									
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照									
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度		出席状況	
授業計画										
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師			
1	1. 住宅の基礎知識 1) 住宅を構成する要素 2) プランの見方				講義・演習		佐藤 豊			
2	2. 居住空間の構成				講義・演習					
3	3. 介護保険制度にみる高齢者用施設のあり方				講義					
4	4. バリアフリーを具現化するための基準									
5	5. 食事の基礎知識 1) 食事の意義 2) 栄養バランス				講義		飛奈 卓郎			
6	6. 栄養・食育対策 1) 食育の推進 2) 食事バランスガイド 3) 日本人の食事摂取基準 4) 国民健康・栄養調査									
7	7. 現代社会と食生活									

	1) ライフサイクル別の食の課題 2) 食と健康に関するトピックス		
8	終講試験	試験(評価)	単位認定者 飛奈 卓郎

分野	基礎分野	科目名 単位(時間)	家族関係論 1 単位(15 時間)	授業形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期			
講師名 所属	福山 由美 佐賀大学医学部 准教授									
授業概要	1. 家族看護が必要となっている社会背景 2. 地域・在宅で療養している人・家族を支える公的資源 3. 家族看護の代表的な理論やモデル 4. ライフステージ別における家族看護の事例検討									
科目目標	1. 看護を提供する上で家族を含めたアセスメントの重要性を説明できる. 2. 介護 / 療育している家族を支える公的資源のサービス窓口・概要を説明できる. 3. セルフケア機能が低下している家族の課題を理論やモデルを用いて整理することができる.									
テキスト	適宜資料作成し配布									
参考文献	1. 家族看護学 理論と実践 鈴木和子 渡辺裕子 日本看護協会出版会 2. 高齢者・難病患者・障害者の医療福祉 (シリーズ生命倫理 8) 大林雅之 徳永哲也 (編) 3. 医療的ケア児・者在宅医療マニュアル 前田浩利, 他 (著) 南山堂 4. 家族看護を基盤とした地域・在宅看護論 渡辺裕子 監修第 5 版 日本看護協会出版									
評価方法	レポート : 1,500-2,000 字以内/回, 対面授業の際に遠隔授業, レポート提出先の説明をします 課題レポート 5 回 (提示 : 課題①授業 2 回目, 課題②授業 4 回目, 課題③授業 5 回目課題 ④授業 6 回目, 課題⑤授業 7 回目) レポートの内容による総合評価									
	筆記		レポート	○	口頭試問		授業態度		出席状況	○
学修に向けたメッセージ	この授業では, 典型的な家族看護の事例をだし, その事例を理解するための理論や考え方, 必要な法律・制度・社会資源の説明を行います. また, 皆さんが事例に対して考えた内容を授業で紹介しながら学びを深めていきます. Health Begins at Home!									
授業計画										
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師				
1	家族とはなんだろう (家族機能, 同意権者, 等)			講義 (対面)		福山 由美				
2	介護者, 療育者の健康と支える力 (支える力に影響を与える要因, 等)			講義 (対面)		福山 由美				
3	介護 / 療育している家族を支える公的な資源 (介護保険法, 障害者総合支援法, 児童福祉法, 等)			講義 (遠隔)		福山 由美				
4	代表的な家族モデル・理論 (家族システム理論, 家族ストレス対処理論, 等)			講義 (遠隔)		福山 由美				
5	家族構成や人間関係を整理するツール (ジェノグラム, エコマップ, 等)			講義 (遠隔)		福山 由美				
6	介護 / 療育している家族への看護① (事例 1: 高齢者)			講義 (遠隔)		福山 由美				
7	介護 / 療育している家族への看護② (事例 2: 成人)			講義 (遠隔)		福山 由美				

8	介護 / 療育している家族への看護 ③ (事例 3: 小児)	講義 (遠隔)	単位認定者 福山 由美
---	-----------------------------------	---------	----------------